

# 東京聖栄大学報



## 創立60周年記念特集

第3号  
2007.10

### C O N T E N T S

創立 60 周年記念式典式辞 理事長・学長	2	平成 19 年度公開講座	11
創立 60 周年によせて		平成 18 年度決算報告	12～14
学部長・専門学校校長・幼稚園園長	2～4	募金について・人事異動	15
創立 60 周年式典・祝賀会	4～6	大学附属わたなべ幼稚園だより	16
創立 60 周年記念事業寄付申込者芳名	7	委員会活動	17
平成 19 年度入学式・学科行事	8	学友会活動	18・19
学生支援センターの活動	9・10	学生募集要項・受験相談会	20

## 創立60周年記念式典式辞 —新たなるスタートを期して—



理事長・学長  
福澤 美喜男

学園創立記念日の今日、ご来賓各位のご臨席を仰ぎ、オリムピア学園創立60周年記念式典を挙げますことは学園関係者の大きな喜びであります。

昭和22年に自活の手段を持たない婦女子が自立出来るようにと渡邊正助・富久子両先生がオリムピア洋裁学院を葛飾区下小松町（現在の西新小岩6丁目）に開設したのが始まりであります。以来、時代の変遷と

共に、教育の対象が「衣から食」へと代わりましたが、職業教育を通して人材を育成し、現在も各分野で卒業生が活躍しております。

東京聖栄大学のルーツは昭和29年に開校した聖徳栄養高等学校まで遡ります。その後、校名を聖徳栄養専門学校に変更しました。更に昭和38年には専門学校を廃止して聖徳栄養短期大学を開学しております。短大に昇格した当時は学園の内外に諸問題が多く、教育環境の整備が進まなかった為、受験生からも見放され、定員割れの時期もありました。こうした苦境の最中、渡邊正助初代理事長が逝去されました。渡邊富久子先生が理事長・学長を兼務され、更に経営陣に渡邊徳臣、川口力氏を入れて教育環境の整備を行い、ようやく短大らしくなったのは昭和55年頃からであります。本日の記念式典に若くして逝かれた両氏の姿がないのは寂しい限りです。

渡邊富久子理事長が管理栄養士課程を設置したいと

## 創立60周年によせて



東京聖栄大学  
学部長  
舩重 正一

学園が60周年を迎えた今年、大学は開学3年目となり、学生の授業は専門性を深めている。学外の社会環境も平成17年「食育基本法」の施行により、教育に食の重要性を導入し、食品の安全性への関心が高まっている。加えて現代科学が「食」と「健康」にどう影響しているか。また、科学技術が生み出す新規食品が食卓を豊かにし、生活を高めたか。それが見えてくると「食」のみでなく、人生観がもっと興味深いものになってくる。一方、科学技術の受益によるのか社会環境の変化によるのか結論づけるのは難しいが、台所仕事を見せる機会が減少して「おふくろの味」が伝わらなくなり、伝統的な「食」が衰退していることに悲しさを覚えている。

ヒトの生活は衣食住の3要素から成るが、食については正確な知識を欠くと身体に極めて不都合な状況が起こる。故に科学の中でも重要な分野を占めている。

人類は古来健康で長生きすることを彼岸とした。健康の保持には「程よい運動、適切な栄養、充分な休養」が必要である。中でも栄養は大事であり、その大本は「食」にある。先進諸国では食べ物が過多に供給されるが故の不都合も起こっている。食べ物の体内における役割も十分知らなければならない。だからこそ、本学は教育と研究の充実が大切になる。研究を基盤にした教育がなされ、実験に裏打ちされた結果を目標としなければならない。教育の成果は学生と教員がどれだけの回数と時間を持ったかで計れる。やがて学生は研究室に配分され、生活を共にするようになるとその効果は更に期待される。大規模校とは異なった環境が効果を一層高めると言える。

本学はどうやって基礎的な知識を持った人間味あふれる学生を在学中に創るか。しかも、倫理観を発揮できる実務者、本当に必要なものを見抜く判断力と先見性を併せ持った学生の育成が求められる。教員は、日本学術振興会の科学研究費補助金を取得して欲しい。特に若手教員は奨励研究があるので、文献研究をしっかりと表現して業績を積み上げて欲しい。

学園は還暦を迎えたが、大学は幼苗そのものである。本学が大樹に向かって生育できるよう最初の環境づくりが私に課せられた役目と思っている。

考えられたのは平成11年頃からでしたが、当時の大学設置基準では校地が不足していたため不可能でしたが、先生はその夢を持ち続け近隣に土地を探しておりましたが、渡邊富久子先生も平成13年に享年89才で天寿を全うされました。その遺志を継いだ、川口理事長も精力的に校地を探したが見付からず、万策尽きたかにみえた平成15年3月に、大学設置基準が緩和され、現在地での設置が可能となり、申請業務を開始した矢先に、川口理事長が急逝されましたが、申請業務を進め、平成16年4月に文部科学省に申請書類を提出し、平成16年11月30日に東京聖栄大学の設置認可を受け、4年制大学が誕生した次第です。

聖徳調理師専門学校は昭和35年、聖徳栄養専門学校に併設された調理師科からスタートしました。短期大学の誕生に伴って独立し、昭和42年に2号館に移転しております。現在、1年制の調理師科と2年制の専門調理技術科があります。

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園は短大附属の幼稚園として学園創立30周年の記念事業の一環として鎌ヶ谷市に開設されました。「心も体も健やかに」を

スローガンに掲げ、約300名近い園児が元気よく学んでいます。園では教職員が力を合わせて「食育」に取り組んでおり、鎌ヶ谷地域の幼児教育に貢献しております。

以上のような発展の歴史をたどってまいりましたが、この60周年を一つの区切りとして、学園の改革と更なる発展を期して法人名を「学校法人東京聖栄大学」に変更いたします。各学校は校訓である「和」の精神のもと、教職員が一体となって学生、生徒、園児一人一人の個性を伸ばす所謂「手作りの教育」の教育を行うと共に、大学、専門学校においては、学園創立の趣旨である「技術を身につけさせる教育」を建学の精神として、「食と健康」に関する技術教育を通して社会に貢献できる人材を育成し、併せて産学官の連携を図り、地域社会や文化に貢献できる学園にすることを宣言いたします。新生学校法人東京聖栄大学を皆さんで育て、小規模校でもキラリと光る学園にするため、教職員を始め関係各位の一層のご協力をお願いして式辞と致します。

(要旨)



聖徳調理師専門学校  
校長  
平澤 正男

創立60周年を機に、学校法人オリムピア学園から学校法人東京聖栄大学に名称変更となり、新しい時代に向け再出発をすべき時が来た。本学は、技術で自立できる職業人の教育を建学の礎にしている。その精神はいささかも変わりはなく、大学であれ、専門学校であれ、しっかりとその意志を受け継いでいかねばならない。

私は専門学校一筋に33年の歳月を費やして来た。学園の60年とは較べるべくもないが、過去を振り返ると、さまざまな思い出が走馬灯のように脳裏を駆け巡る。顧みると、私自身、全力投球の毎日、突っ走ってきた感がある。どうにかやってこられたのも周りの人達との連携がうまく行ったからに他ならない。積み重ねてきた結果が現状であるならば、それを良しとする考えを持たなければ、これから前に進めないと思う。

学園は全教職員が日々弛まぬ努力によって維持発展してきたが、少子化によって今まで培った根幹が脅かされ始めている。

かつて、日本人の多くは、一億総中流意識の生活観を持っており、今日のような二極化、つまり、差別社

会になって行くことなどあまり考えていなかったが、現実化されつつあり、学校経営と教育、二つが折り合う接点はなかなか見つけにくい時代となった。どちらも適当にやれば良いという訳にはいかない。このほごまに居る者にとって耐え難いものである。多くの場合、教育職はやゝ守勢に立たされ、言われることに頷く習慣が備わっているらしい。しかし、人として、偶にはNOという事もある。その時は何かを覚悟する必要もあるのだが、私は頓着せず自己表現する。

最近、色々な会合に出席する機会が増えて、さまざまな人間模様に接する。しかし、私の心情は、今も変わらない。考え方は人それぞれであるが、大きな目標に向かって物事を判断して実行するときは、英知を結集して憂いを残さない事が大事である。

本学の将来は、決して平坦な道ではないと思うが、大学をはじめ、大学附属わたなべ幼稚園、そして専門学校が独自性を保ち、互いに補完できるところは補完し合いながらやって行くことができれば良いのではないかと。少なくとも専門学校においては、やるべき事をきちんと整理して、将来展望を見定め、やって行かねばならないと思っている。これからも実学に重きを置いて、職場で即戦力となる調理師、社会に貢献できる調理師の育成に情熱を傾けたい。





大学附属わたなべ幼稚園  
園長

萩原 和代

学園の創立60周年記念式典が盛大に挙行されました。わたなべ幼稚園は学園創立30周年を記念して開園されました。したがって、今年30周年を無事迎えることが出来ました。

初代理事長・園長である渡邊富久子先生が幼児期の食生活の大切さを提唱なさって開園しました。

今、脚光を浴びている食育を30年前から考えていらしたことに洞察の深さを感じ、渡邊富久子先生の理念であります「徳育」「体育」そして「食育」を大切に日々の保育にあたっております。幼児教育の世界では子育て支援と食育が大きなテーマとなっておりますが、わたなべ幼稚園でも色々な取り組みをしております。

食育に関しては学園卒業生である栄養士が、給食便りや、食事指導に当たりながら園児達の食事への関心やマナーを育てております。また、幼稚園内の小さな

菜園で、園児達が野菜作りに取り組み、食への関心と植物の生長に興味を持って楽しんでおります。

保護者の方々にも食育への関心を持っていただこうと、数年、東京聖栄大学の先生の講演会を催しております。子育てで忙しい中、少しでも食生活の大切さをわかっていただきたいと思っております。

子育て支援につきましては、地域との交流、保護者ニーズなど、色々な角度からの子育て支援を考えていかなければならないのが現実です。保護者の就労の為の預かり保育、保護者の子育てに対する相談や、情報の提供など幼稚園の持っている施設や、人的資源の提供が重要になってきています。わたなべ幼稚園の大きな特色である東京聖栄大学の附属としての有効性を生かし、大学の先生方の知識や実践を、幼稚園で披露していただければと思っております。

前述しましたが、食育の講演会、心理学の先生の子育て相談、少しずつではありますが大学との交流を図って、保育者自身も学んでいける体制作りを図って行きたいと思っております。また、大学の附属として大学の実践園となって先生方に情報を提供できれば幸いですと思っております。

## 創立60周年式典・祝賀会

学校法人オリムピア学園の「創立60周年式典」が去る5月31日、本学1号館講堂に於いて学校関係者出席のもと挙行された。

はじめに教職員物故者慰霊黙祷の後、福澤理事長の式辞、来賓を代表して本学顧問平沢勝栄衆議院議員より祝辞が述べられた。続いて学園功労者への感謝状贈呈、永年勤続者表彰があり、最後に校歌が斉唱され式典は終了した。

記念祝賀会は、会場を錦糸町東武ホテル・レバント東京に移して行われ、創始者のレリーフ除幕で始まり、福澤理事長の挨拶、本学園顧問林淳三先生ならびに平沢勝栄氏夫人あや子様よりご祝辞があり、乾杯は巻田学園理事の発声によって行われ祝宴に入り和やか雰囲気の中、参加者が学園の益々発展を祝った。



大学正門



受付



物故者慰霊黙祷





理事長式辞



司会 赤堀五百重総務課長



式典会場



本学顧問平沢勝栄氏祝辞



学園功労者内山俊一氏感謝状贈呈



永年勤続者表彰



校歌斉唱



永年勤続者表彰





林淳三氏祝辞



平沢あや子氏祝辞

レリーフ除幕



巻田泰治理事乾杯



祝賀会会場



小久保吉朗新小岩第6自治会長  
中締挨拶

## 同窓生からの声



念願の学園創立者両先生のレリーフが製作され、聖栄会一同心む思いです。学園の名称変更で学校法人東京聖栄大学となり、人に良いという「食と健康」を更に育て頂き、更なるご発展を祈念申し上げます。



祝宴

# 学園創立60周年記念事業寄付申込者芳名

○この芳名一覧は、平成19年8月末までにお申し込みいただいた方について掲載いたしました。

○芳名の区分が重複する方については、いずれか1つの区分にて掲載させていただきました。(敬称略)

## (役員)

金 100万円 福澤美喜男  
 金 30万円 内山 俊一  
 金 30万円 卷田 泰治  
 金 20万円 岡本 昭次  
 金 20万円 小林 壯一  
 金 20万円 平澤 正男  
 金 20万円 山崎 文雄  
 金 20万円 渡邊 悟  
 金 10万円 中村 甫尚  
 金 4万円 飯島 満信

## (評議員)

金 15万円 石橋 征夫  
 金 10万円 内堀 恵子  
 金 10万円 萩野 薫子  
 金 10万円 郡 莊一郎  
 金 10万円 筒井 知己  
 金 10万円 萩原 和代  
 金 6万円 立原 とく  
 金 6万円 永野 幸枝  
 金 4万円 岩崎 康雄

## (東京聖栄大学教員)

金 20万円 東 晨児  
 金 20万円 舩重 正一  
 金 10万円 阿左美章治  
 金 10万円 小野恵津子  
 金 10万円 酒田 英夫  
 金 10万円 品川 弘子  
 金 10万円 富吉 靖子  
 金 6万円 牛腸ヒロミ  
 金 5万円 柳瀬 昌弘  
 金 4万円 荒木 裕子  
 金 4万円 飯樋 洋二  
 金 4万円 井筒 雅  
 金 4万円 植芝 牧  
 金 4万円 岡田 弘  
 金 4万円 前田 宜昭  
 金 4万円 丸井 正樹  
 金 3万円 松本 信二  
 金 2万円 伊澤 正利  
 金 2万円 植松 節子  
 金 2万円 鈴木 和枝  
 金 2万円 橋場 直彦  
 金 2万円 橋場 浩子  
 金 2万円 真木 俊夫  
 金 2万円 大塚 静子  
 金 2万円 篠原 尚子  
 金 2万円 根本 勢子  
 金 2万円 星野 浩子  
 金 2万円 宮下 和子  
 金 2万円 山本 直子  
 金 2万円 吉田真知子

## (聖徳調理師専門学校教員)

金 4万円 奈良 勢子  
 金 2万円 稲葉 永治  
 金 2万円 小林 信夫  
 金 2万円 野口 栄  
 金 2万円 松本 哲尚  
 金 2万円 吉田 光一  
 金 2万円 畔柳里恵美  
 金 2万円 村上 匡

## (わたなべ幼稚園教員)

金 4万円 上之原直子  
 金 2万円 井伊由起子  
 金 2万円 諫早 望  
 金 2万円 梅田 有希  
 金 2万円 蒲池 直美  
 金 2万円 川本早智子  
 金 2万円 新田さやか  
 金 2万円 檜山 尚子  
 金 2万円 細田 佳恵  
 金 2万円 森川 知子

## (事務職員)

金 10万円 相田 靖隆  
 金 5万円 奥 信三郎  
 金 5万円 小山ヤス子  
 金 4万円 赤堀五百重  
 金 4万円 上川 昌利  
 金 4万円 斉藤 哲男  
 金 4万円 曾我 俊男  
 金 4万円 平澤 信子  
 金 4万円 丸山 信一  
 金 3万円 金子 俊也  
 金 3万円 鈴木 和男  
 金 3万円 多田 功  
 金 3万円 田村 勲  
 金 3万円 玉井 弘美  
 金 2万円 梅村 光代  
 金 2万円 會田 進  
 金 2万円 高山 五月  
 金 2万円 中尾 祥子  
 金 2万円 穂苅 亜紀  
 金 2万円 矢野求美子

## (元教職員)

金 6万円 浜島 教子

## (聖栄会関係)

金 5万円 安藤美佐子  
 金 4万円 伊藤 一宏  
 金 4万円 櫻井けふ子  
 金 4万円 田島 敬  
 金 4万円 森 民子  
 金 3万円 板橋美知恵  
 金 3万円 内田 稔  
 金 3万円 恩田 令子  
 金 3万円 高井 かね  
 金 2万円 飯塚富美恵  
 金 2万円 井上 靖江  
 金 2万円 梅田美智子  
 金 2万円 大嶋エミコ  
 金 2万円 岡崎支美子  
 金 2万円 粕谷美恵子  
 金 2万円 川島 早苗  
 金 2万円 小林ミヨ子  
 金 2万円 白井 セン  
 金 2万円 嶽山由美子  
 金 2万円 豊島 敦子  
 金 2万円 中野 洋子  
 金 2万円 西田 良子  
 金 2万円 長谷川文枝  
 金 2万円 藤田 勝子  
 金 2万円 水野 弘子

## (東京聖栄大学後援会関係)

金 6万2,862円  
 糸数 詔夫

## (一般個人)

金 10万円 染野 光宏  
 金 8万円 岸口 幸夫

## (団体)

金 100万円 東京聖栄大学後援会  
 金 100万円 聖栄会(短大同窓会)  
 金 30万円 調理師専門学校後援会  
 金 30万円 調理師専門学校同窓会

## (法人)

金 50万円 ジャパンプロテクション(株)  
 金 50万円 戸田建設(株)  
 金 50万円 (株)三井住友銀行  
 金 30万円 (株)清和ビジネス  
 金 30万円 菅原印刷(株)  
 金 30万円 東京セントラルエアコン(株)  
 金 30万円 (株)雄電社  
 金 20万円 愛知(株)  
 金 20万円 梶原電工(株)  
 金 20万円 三栄建設(株)  
 金 10万円 (株)オリムピア  
 金 10万円 (株)かねかつ商会  
 金 10万円 (株)教育施設研究所  
 金 10万円 (株)建帛社  
 金 10万円 清水印刷(株)  
 金 10万円 (有)富永設計  
 金 10万円 (有)米山建築総合企画  
 金 5万円 (株)日本ドリコム  
 金 5万円 (株)矢沢科学  
 金 4万円 (株)大山  
 金 4万円 (株)ニッココンサービス  
 金 3万円 弘正堂図書販売(株)  
 金 3万円 (株)東都宣伝社  
 金 3万円 (株)東栄サービス  
 金 3万円 医療法人社団七星会  
 金 2万円 磯川タオル  
 金 2万円 (有)澤井水産  
 金 2万円 (有)丸紅商会  
 金 2万円 中川インテリア(株)  
 金 2万円 (株)大和通信社  
 金 1万円 (株)さんぼう

## 合計

役員・評議員	19件	355万円
教職員	68件	269万円
元教職員	1件	6万円
大学後援会	2件	106万2,862円
聖栄会関係	26件	165万円
専門学校後援会関係	1件	30万円
専門学校同窓会	1件	30万円
法人関係	31件	441万円
一般個人	2件	18万円

## 総計 151件

1,420万2,862円



## 平成19年度入学式



平成19年度入学式は去る4月4日（水）わたなべ記念館に於いて厳粛な雰囲気の中で挙行された。

入学を許可されたのは健康栄養学部・管理栄養学科103名、食品学科51名、総計154名であり、これから始まる大学生活に胸をふくらませ式に臨んでいた。

式は福澤美喜男学長の式辞で始まり、学園の沿革と建学の精神、教育の理念並びに、校訓の「和」の精神について触れた後、新入生に大学生活を送る上での心構えについて「今日から学生と呼ばれます。学生という呼び方をされる人は自ら進んで学問を修める人であ

り、大学では自発的に学ぶ姿勢が大切です。大学で学ぶ場合、高校までの課程で学んだ教科が基礎になるので、入学当初は高校の教科書を参考にして勉強することを勧めます。

また、最近の学生の中にはマナーを心得ない人がおり、恥ずかしいことです。特に言葉遣いや挨拶、約束守ること、「食と健康」を学ぶ学生らしい清潔な服装や身だしなみをする事は自己管理の基本ですから常に自分自身の日常を顧みるよう心掛けてください。

本学のような管理栄養士受験資格、食品衛生管理者、食品衛生監視員等の資格が取得出来る大学は必修科目が多く、授業回数、出席時間など厳しくチェックされ、ハードですから規則正しい生活をして、健康を保つこと。これから「食と健康について」学ぶわけですから、学んだことは自分の生活に生かして、規則正しい生活習慣が身につくよう努力してください。」と訓示された。

この後、新入生宣誓や来賓祝辞、祝電披露に続いて、最後に全員で校歌を斉唱し、式は滞りなく終了した。

## 学科行事

### フレッシュマン実力向上講座の開設

本学では、昨年度より、入学後の大学教育への移行を円滑に進めるために、新入生に対してフレッシュマン実力向上講座と銘打ち補習・補習教育を実施しているが、本年度は、化

学について、時間割に組み込み、5月初旬より10週間（90分授業10回）にわたって行われた。

本年度のこの講座は、高校における化学の未履修者とプレースメントテスト（学力判定テスト）で学習が不十分と判定された者及び希望者を対象としたもので、受講者は117名であった。

### 国試対策・模試・総括補習

今年度は平成17年入学生が3年生となり、国家試験の100%合格を目指し管理栄養士国家試験対策が本格化している。本学科では国試対策を円滑にするために「管理栄養士国家試験対策部会」、「対策ワーキンググループ」を設置し、部会長をはじめとして各教科担当、学年担任のほか関係教職員全員による支援体制を整えている。国家試験対策として先ず1年次においては管理栄養士や国家試験に対する基本的な理解を深めるとともに栄養関連基礎分野の基礎力をつけること

を第一に進めている。1、2年次においては専門基礎教科の理解が対策学習の基本であること認識させるとともに、2年次においてはさらなる理解の底上げを期して夏季休暇に対策特別補習として実施している。3年次では4月に当該年度の管理栄養士国家試験問題をもちいて本番さながらの試験を実体験させ、学生は国家試験の何たるかを知り、また実施する対策補習や各種模擬試験等とあわせて自身のセルフチェックをして4年次に備える。4年次ではゼミナールや対策補習、模擬試験を通し徹底した国試対策と十分なサポート体制のもとで本学科生の合格への道を確保する。

### 総括試験

食品学科では、各学年の学生に、前期終了時または後期終了時にそのときまでに履修した各教科の課題を提出させている。これは休暇期間中の学生の学習効果をあげるためである。1例として1年生に対しては基礎化学、生物有機化学、食品学総論、栄養生化学、調理学の各教科で20から150項目のキーワードを与え、その内容をレポート用紙にまとめて提出する

ように指導した。後日これらの教科の理解度を把握するために総括試験を実施し、学生の総合的な実力を判定した。後に各担当教員が答案を返却し、補足すべき点を解説している。2年生、3年生にも同様の出題、指導をしているが、3年生に対しては、さらにフードスペシャリスト合格を目指して、フードスペシャリスト資格認定試験問題を演習させ、食物学、食品の安全性、調理学、栄養と健康に関する各教科に総合的な実力が身につくように指導している。



## 1 年次夏期研修

今年度から開始された管理栄養学科 1 年次に対する夏期研修は、8 月 6 日・7 日、山梨県富士河口湖のセミナープラザ「ロイヤルフジ」において実施された。福澤学長による管理栄養学科の創設についての話をはじめ、臨地実習・管理栄養士

国家試験対策についての説明やグループディスカッションなど盛りだくさんの内容であった。有意義な 1 泊 2 日の日程を終えた。



## フィールド研修

食品学科は 1 年次生を対象に、今年も食への関心を現場で深める目的で 2 泊 3 日（8 月 6 日から 8 日）のフィールド研修を実施した。研修先は、長野県伊那地方で初日に伊那食品工業株の工場見学、二日目に三和農園での五平餅作り体験や



野菜収穫の農業体験、三日目には農業公園チロルの森でのアイスクリーム作りやそば打ち体験などの研修を行い、学生たちの親睦も深まった。

## 食事情海外視察研修

海外研修二年目は農業国タイ。その生産高は高く、世界でも有数の食料供給国として知られ、食品加工も盛んである。国立の稲作研究所のほか、4 つの食品工場、さらにタイ料理の実習と内容豊富。美味しいタイ料理を堪能、ゾウに乗ったり寺

院や遺跡の見学をしたり、バザールでの買い物も楽しむことができ、収穫の多い研修旅行であった。



# 学生支援センターの活動

昨年 4 月の事務機構改革により作られた『学生支援センター』は、発足から 1 年半が経過し、「入試広報業務」から「学生生活支援」「就職支援」の広く 3 つの業務を受け持つ学生サービス部門として現在は順調に稼働している。学生支援センター開設後、「入試広報業務」としては、春・秋・冬期における首都圏を中心とした高等学校訪問やオープンキャンパス(夏)・受験相談会(秋・冬)を実施してきた。また、全国で行われている大学進学相談会等への参加も積極的に行う体制が整い、東北・関東甲信越地区を中心に参加をしている。「学生生活支援業務」としては、特に①『マナー向上運動』『ECO

推進運動』など全学的な推進活動の実施②学園創立後 60 年の良き伝統を受け継ぎながらも 4 年制大学として学友会を中心とした学生主体の学生生活の運営サポート体制が確立③『聖栄葛飾祭』(大学祭)の命名に代表される地元新小岩や葛飾区内の関係機関との地域共創事業の実施、などの施策を行ってきた。「就職支援業務」としては、1・2 年次生へのキャリア支援業務の充実を図るとともに、秋以降に開始する 3 年次生への就職活動に対する支援が本格化する。学生の皆さんは今後、就職相談についても学生支援センターを積極的に活用してください。

## マナー講座

昨年度から実施している『マナー向上運動』を徹底するため、本年度も 6 月 25 日に新入学生を対象にマナー講座を実施した。講師は、元聖徳栄養短期大学非常勤講師で現在財団法人実務技能検定協会面接試験官の前田小百合先生による「マナー講座 素敵な大学生活を送るために」と題した講演は、自立した社会人になるための過渡期にマスターしなければならない実践



的なマナーについて分かり易く説明された。

## リサイクル講座



今年度より実施している『ECO推進運動』の活動の最初の行事として、7月2日に「リサイクル講座」を

実施した。地球環境問題の観点から全世界的にECO推進の重要性は認識されているが、本学の具体的取り組みは不十分であった。地元葛飾区との協調も兼ね葛飾区役所環境部リサイクル清掃課による「葛飾区のごみの現状とごみ減量の必要性について」と題する講座では3つのR、特にごみを出さないリデュース (Reduce) の重要性が指摘された。今後も全学的に「ECO」活動を推進していきますのでご協力をお願いします。

## 特別就職講座

今年度の就職特別講座は、6月18日元雪印乳業株式会社専務取締役の十河幸夫先生を講師として招き、「採用(就職)試験における選ぶ側から見た判別のポイント」と題する講演会を実施した。講演では、今後社会で活躍

するための基礎能力として「英語」と「漢字能力」の2点を特に強調され、実践的な指摘に学生は大いに刺激を受けた。



## キャリア・就職サポート

学生支援センターでは、早くから就職への意識を持ち、自分の可能性を踏まえて進路選択ができるよう、低学年からキャリア教育をしている。今年度は、第1期生が3年次生となり職業適性テストの実施や学生

支援センターによる3年次生全員の就職面談など学内教職員による支援の充実に加え、就職情報会社のリーディングカンパニーであるリクルートや毎日コミュニケーションズの社員による業者ガイダンスを実施し、サポート体制の充実を図った。



## TOPICS

### 東京聖栄大学奨学金

東京聖栄大学奨学金は、本学3年次生の学生の中から、学力優秀、品行方正かつ心身ともに健康なものに授与される。

今年度は、5月22日に福澤学長から3名の学生に奨学金が授与された。



管理栄養学科 川口春菜  
管理栄養学科 古橋 恵  
食品学科 簗口真希



# 19年度公開講座

18年度の公開講座（併設の聖徳調理師専門学校公開講座を含む）は、定員326名に対し、413名（延べ数）の方から応募をいただきました。17年度に応募総数に対し18年度に応募数は減少した反面、応募リピータ数は49.6%と高く、ご応募された方のお二人におひとりがりピータの方で、これまで講座をご担当された先生方の評判が数字に表れ、受講者のご関心を得られたと確信いたしました。

応募数の減少については、講座の企画が、実習を主流とした講座や受講資格を設けたことにより、高齢者の方からのご参加が敬遠され、例年にはない年齢層（30歳代）のご応募が多く占められておりました。

18年度の講座では、これまでの成果に加え、ご担当された先生方のご尽力により検討課題であった大学講座に数回の連続講義からなるレギュラー講座を開設できたこと、小学生対象の親子講座を再開することが挙げられます。

特に、小学生対象親子講座「ジャム作り体験」は、応募数も多く、講座終了後も19年度継続開催のご要望や問合せを受け、19年度の講座企画案の中で早急の検討に入りました。

今年度の公開講座は、昨年度の反省やご要望を踏まえ表1の通り実施してきております。

講座No.1の小学生対象親子講座「ジャム作り体験とパン作り体験」は、2回に亘るレギュラー親子講座で、

低学年の小学生も参加できるよう準備を進めました。参加された小学生からは、「作ったジャムをクラス全員に食べてもらえて嬉しかった」「買ったパンより作ったパンの方が美味しく安心だよ」など。保護者の方からは「ゲーム以外に子供がこんなに集中して取り組むとは思わなかった」「これからは子供と一緒に作りたい」というご感想と併せて、食品への関心と物づくりの大切さを深められていました。

講座No.2～4は、高齢者の方にもご参加できる講義講座として「明るい健康栄養学」と題して1日講座を3週に亘り実施しました。1回目は「食事バランスをよくして病気を予防する方法」2回目は「心と栄養の繋がりからストレスを和らげる方法」3回目は「糖尿病の食事療法」と幅広い視点から健康を維持する講座であったことから講座終了後に次回の講座を申し込まれる方が多く結果的にレギュラー講座としても成り立ったほか、受講者からは本学に対して栄養指導施設の開設が要望として挙げられました。

今年度の大学講座は、残すところ10月に実施する小学生対象親子講座です。この講座は、高学年の小学生向けの講座で「バターと裂けるチーズ」を作りながら、理科知識と乳製品の栄養価値を学ぶ講座を予定しています。

また、専門学校の公開講座は表2のとおり2、3月に精進料理の講座を予定しております。

平成19年度大学公開講座（表1）

講座番号	講座名・テーマ	実施日	場 所	講 師
No.1 レギュラー講座	小学生対象親子講座 Part I 1日目<ジャム作り体験>	平成19年4月28日（土）	4号館 製菓・製パン実習室	大学教授 松本 信二 先生
	2日目<パン作り体験>	平成19年5月12日（土）		大学講師 飯塚 良雄 先生
No.2 1日講座	明るい健康栄養学 Part I 食事のバランス感覚をみがこう	平成19年6月23日（土）	1号館 多目的ホール	大学講師 小野 恵津子 先生
No.3 1日講座	明るい健康栄養学 Part II 心と栄養	平成19年6月30日（土）	1号館 多目的ホール	大学講師 植松 節子 先生
No.4 1日講座	明るい健康栄養学 Part III 糖尿病と食事	平成19年7月7日（土）	図書館棟 栄養教育実習室	前国立国際医療センター 栄養管理室長 高橋 興亜 先生
No.5 1日講座	小学生対象親子講座 Part II <“バター”と“裂けるチーズ”の手作り体験>	平成19年10月20日（土）	6号館 機器分析実験室	大学教授 井筒 雅 先生

平成19年度専門学校公開講座（表2）

講座番号	講座名・テーマ	実施日	場 所	講 師
No.6 レギュラー講座	レギュラー講座初級編 その1-ガイダンス	平成19年5月19日（土）	聖徳調理師専門学校	専門学校教員 吉田 光一 先生
	その1-1日目	平成19年5月26日（土）		
	その1-2日目	平成19年6月2日（土）		
	その1-3日目	平成19年6月16日（土）		
No.7 レギュラー講座	レギュラー講座初級編 その2-1日目	平成19年9月2日（日）	聖徳調理師専門学校	専門学校教員 吉田 光一 先生
	その2-2日目	平成19年9月9日（日）		
	その2-3日目	平成19年9月29日（土）		
No.8 1日講座	プロが教える精進料理A	平成20年2月9日（土）	聖徳調理師専門学校	専門学校教員 小林 信夫 先生
No.9 1日講座	プロが教える精進料理B	平成20年3月1日（土）	聖徳調理師専門学校	専門学校教員 小林 信夫 先生
※専門学校レギュラー講座 中級編 実施日 5/26、6/2、6/16 対象者：18年度初級編参加者から限定。 内容：家庭料理技術検定対策講座				野口 栄 先生 奈良 勢子 先生 稲葉 永治 先生

# 平成18年度決算報告

学校法人東京聖栄大学

18年度決算に基づく本学園の財務状況は別表の通りである。本学は、平成17年度開設し、18年度は発足して2年目の未完成の大学であり、また短期大学が廃校になったことにより、学生数が最も少ない年度であった。このため学生生徒等納付金収入は、最近では最低となった。補助金収入、寄付金収入等若干増加し、また収益事業を開業するなどして収入増に努めている

が、財政状況は依然厳しい状況が続いている。

支出については、教育研究環境の整備充実に配慮しつつ、人件費の抑制を継続すると共に、多額の費用を要する施設・設備の取得、有価証券購入などを極力先送りするなど、不要不急の支出の抑制を行い収支改善に努めた。

## 1. 資金収支計算書

本年度の資金収支の決算規模は、36億9200万円となり、前年度比2億3100万円減となった。前年度繰越支払資金を除く収入額は、16億3700万円であり、これに対して当年度支出額は14億3000万円となったので、次年度繰越支払資金は2億700万円増の22億6200万円となった。

資金収支計算書 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位 円)

	科目	予算(補正)	決算	差異
	収入の部	学生生徒等納付金収入	672,790,000	677,793,400
手数料収入		22,150,000	22,762,600	△612,600
寄付金収入		18,000,000	29,120,644	△11,120,644
補助金収入		135,570,779	135,570,779	0
資産運用収入		2,967,000	4,918,170	△1,951,170
資産売却収入		200,000,000	294,992,076	△94,992,076
事業収入		29,514,000	30,959,775	△1,445,775
雑収入		15,200,000	27,351,348	△12,151,348
前受金収入		468,587,000	418,075,500	50,511,500
その他の収入		335,415,585	361,837,494	△26,421,909
資金収入調整勘定		△338,886,565	△366,169,975	27,283,410
前年度繰越支払資金		2,054,366,844	2,054,366,844	
収入の部合計	3,615,674,643	3,691,578,655	△75,904,012	
支出の部	科目	予算(補正)	決算	差異
	人件費支出	713,397,000	709,647,054	3,749,946
	教育研究経費支出	188,000,000	190,096,116	△2,096,116
	管理経費支出	128,280,000	136,545,815	△8,265,815
	借入金等利息支出	3,960,000	3,960,000	0
	施設関係支出	108,800,000	99,611,350	9,188,650
	設備関係支出	30,700,000	44,868,540	△14,168,540
	資産運用支出	207,900,000	8,237,839	199,662,161
	その他の支出	246,861,725	261,323,967	△14,462,242
	〔予備費〕	10,000,000		
	資金支出調整勘定	△24,829,529	△24,478,340	△351,189
	次年度繰越支払資金	2,002,605,447	2,261,766,314	△259,160,867
支出の部合計	3,615,674,643	3,691,578,655	△75,904,012	



## 2. 消費収支計算書

消費収入は、帰属収入9億2900万円から基本金組入額790万円を控除した9億2100万円である。消費支出の部合計額は12億4000万円であったので、当年度の消費支出超過額は3億1800万円となり、前年度繰越消費支出超過額4億8600万円と合わせて8億400万円になるが、基本金取崩額4億2000万円があったので、当年度決算における翌年度繰越消費支出超過額は3億8400万円となった。

消費収支計算書 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位 円)

	消費収入の部			
	科 目	予算 (補正)	決 算	差 異
	学 生 生 徒 等 納 付 金	672,790,000	677,793,400	△ 5,003,400
	手 数 料	22,150,000	22,762,600	△ 612,600
	寄 付 金	19,000,000	30,084,187	△ 11,084,187
	補 助 金	135,570,779	135,570,779	0
	資 産 運 用 収 入	2,967,000	4,918,170	△ 1,951,170
	事 業 収 入	29,514,000	30,884,185	△ 1,370,185
	雑 収 入	15,200,000	27,351,348	△ 12,151,348
	帰 属 収 入 合 計	897,191,779	929,364,669	△ 32,172,890
	基 本 金 組 入 額 合 計	△ 7,900,000	△ 7,900,000	0
	消 費 収 入 の 部 合 計	889,291,779	921,464,669	△ 32,172,890
	消費支出の部			
	科 目	予算 (補正)	決 算	差 異
	人 件 費	736,397,000	703,186,511	33,210,489
	教 育 研 究 経 費	347,832,000	375,314,503	△ 27,482,503
	管 理 経 費	146,154,000	155,793,795	△ 9,639,795
	借 入 金 等 利 息	3,960,000	3,960,000	0
	資 産 処 分 差 額	50,000	43,490	6,510
	徴 収 不 能 額	0	1,320,000	△ 1,320,000
	消 費 支 出 の 部 合 計	1,234,393,000	1,239,618,299	△ 5,225,299
	当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	345,101,221	318,153,630	
	前 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	485,959,197	485,959,197	
	基 本 金 取 崩 額	420,000,000	420,395,325	
	翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	411,060,418	383,717,502	

貸借対照表 (平成19年3月31日)

(単位 円)

資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 資 産	7,434,801,875	7,630,108,549	△ 195,306,674
流 動 資 産	2,435,031,941	2,531,068,701	△ 96,036,760
資 産 の 部 合 計	9,869,833,816	10,161,177,250	△ 291,343,434
負 債 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 負 債	567,469,215	586,189,758	△ 18,720,543
流 動 負 債	479,160,421	441,529,682	37,630,739
負 債 の 部 合 計	1,046,629,636	1,027,719,440	18,910,196
基 本 金 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号 基 本 金	8,380,024,697	8,701,279,772	△ 321,255,075
第 2 号 基 本 金	696,896,985	788,137,235	△ 91,240,250
第 4 号 基 本 金	130,000,000	130,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	9,206,921,682	9,619,417,007	△ 412,495,325
消 費 収 支 差 額 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	△ 383,717,502	△ 485,959,197	102,241,695
消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	△ 383,717,502	△ 485,959,197	102,241,695
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負 債 の 部、基 本 金 の 部 お よ び 消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	9,869,833,816	10,161,177,250	△ 291,343,434

## 3. 貸借対照表

18年度末の資産の部合計額は98億7000万円であり、前年度末より2億9100万円減となった。負債の部合計は10億4700万円であり、前年度末より1900万円増加した。基本金の部合計は92億700万円となり、前年度末より4億1200万円減となった。消費収支差額の部合計は3億8400万円の支出超過となっているが、前年度末に比べて1億200万円減となった。負債の部、基本金の部及び収支差額の部合計は、98億7000万円となり、前年度に比べて2億9100万円減となった。

## 4. 財産目録

資産は、基本財産 71 億 5500 万円であり、そのうち有形固定資産は 63 億 4900 万円、その他の固定資産 8 億 600 万円である。運用財産 24 億 3500 万円、収益事業用財産は 2 億 8800 万円、資産の部合計額は 98 億 7800 万円である。

負債は、固定負債 5 億 6700 万円、流動負債 4 億 7900 万円、収益事業用負債 771 万円で、負債の部合計は 10 億 5400 万円である。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は 88 億 2400 万円となっている。

財産目録 (平成 19 年 3 月 31 日現在)

(単位 円)

資 産 総 額	
科 目	金 額
基 本 財 産	7,155,055,357
有形固定資産	6,348,618,717
土 地	18,858.76 ㎡ 2,020,960,236
建 物	17,836.39 ㎡ 3,801,566,910
構 築 物	136 式 77,490,213
教育研究用機器備品	8,467 点 276,019,515
その他の機器備品	288 点 35,945,202
図 書	48,386 冊 130,548,611
車 輛	7 台 6,088,030
その他の固定資産	806,436,640
借 地 権	59,900,000
電 話 加 入 権	859,655
差 入 保 証 金	9,000,000
退職給与引当特定資産	39,780,000
施設設備拡充引当特定資産	696,896,985
運 用 財 産	2,435,031,941
現 金 預 金	2,261,766,314
未 収 入 金	26,463,410
有 価 証 券	141,784,239
販 売 用 品	37,677
前 払 金	4,980,301
収 益 事 業 用 財 産	287,917,643
土 地	53,752,920
建 物	216,706,345
構 築 物	1,174,382
機 器 備 品	46,074
現 金 預 金	16,237,922
資産の部合計	9,878,004,941

(単位 円)

負 債 総 額	
科 目	金 額
固 定 負 債	567,469,215
長 期 借 入 金	207,740,000
退職給与引当金	359,729,215
流 動 負 債	479,160,421
短 期 借 入 金	12,260,000
未 払 金	21,048,811
前 受 金	418,075,500
預 り 金	27,776,110
収 益 事 業 用 負 債	7,710,700
未 払 法 人 税 等	1,090,700
前 受 金	1,620,000
預 り 保 証 金	5,000,000
負債の部合計	1,054,340,336

正 味 財 産	8,823,664,605
---------	---------------



学園創立者レリーフ

平成 19 年 6 月 14 日 (木) わたなべ記念館に掲額



# 教育研究施設設備拡充資金の募集について

本学は、約50年にわたって、「食と栄養」に関する教育研究活動を展開し、栄養、健康など食生活の分野において社会に貢献する数多くの人材を世に送り出してきました。しかし、社会の変遷とともに生活様式が変化し、食生活が多様化することによって、生活習慣病の増加など健康に及ぼす影響は大きく社会問題として取り上げられています。こうした問題に対応する為には、より高度な専門知識と技術を修得した人材が求められています。本学ではこうした社会的要求に応えられる人材の養成に取り組んでいますが、教育研究条件の整備充実高度化を推進していく必要があります、その資金が必要です。

昨今の私学を取り巻く客観情勢は、少子化の影響や国庫補助金の減額抑制などにより、一段と厳しさが増してきており、私学財政は新たな局面を迎えています。もとより本学園と致しましても財政基盤の確立について最善を尽くしていく所存ではありますが、更なる施設設備の改善充実に充当する財源は、学生納付金や国庫補助金には余り期待はかけられず、財源の相当部分は大学関係者並びに社会一般からの寄付金に頼らざるを得ないのが実情です。何卒事情ご賢察のうえ、諸事ご多端の折まことに恐縮に存じますが、寄付募金にご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 募金要項

- 目的：教育研究施設設備拡充資金に充当するため。
- 募金目標額：1千万円
- 寄付金額：1口 5万円  
(なるべく2口以上を希望します)
- 募集期間：平成19年12月20日まで
- 申込書、振込方法：本学園所定の用紙をご利用ください。
- お問合せ：事務局財務課募金係  
TEL 03 - 3692 - 0211

◎この募金は税法上所得税の寄付金控除の対象となります。ただし、19年度入学生については、税法上「学校の入学に係わる寄付金」とみなされ、寄付金控除の対象となりませんのでご了承ください。  
詳細については募金係までお問い合わせください。

## 募金受入状況

平成17年度、18年度の募金受入状況は下表のとおりです。

この募金は、別口座に積立て、募金の趣旨に基づいて有意義に活用させていただきます。

年度	申込件数	金額(円)
平成17年度	33	3,150,000
平成18年度	41	3,750,000
平成19年度	18	1,550,000
合計	92	8,450,000

☆平成19年度は7月19日現在(受付中)

# 人事異動

### 〈教員〉

- 大学教員組織変更に伴う職名の変更  
准教授 平成19年4月1日付  
飯樋 洋二、植芝 牧、岡田 弘、前田 宜昭  
眞木 俊夫、丸井 正樹、橋場 直彦(助教授)
- 採用 平成19年4月1日付  
助手 吉田 真知子(所属変更)、藤田 弘美
- 退職 平成19年3月31日付  
講師 吉野 佳織

### 〈職員〉

- 兼務解職 平成18年6月30日付  
石橋 征夫 事務局次長(財務課長兼務解職)
- 昇任 平成18年7月1日付  
上川 昌利 財務課長(財務課長補佐)

- 採用 平成18年9月～平成19年5月  
高山 隆弘(学務課)  
森田 悦子(学生支援センター)  
鈴木 敦子(学生支援センター)  
佐藤 裕美(学務課)  
深川 ひろみ(学生支援センター)
- 退職 平成18年8月～平成19年3月  
善方 高太郎(学務課)  
中島 ふみ(学生支援センター)  
野村 恵子(学生支援センター)  
石橋 征夫(事務局次長)  
佐野 なつき(学務課)

(順不同 敬称略)

## 大学附属 わたなべ幼稚園だより

今年幼稚園の菜園ではじゃが芋、にんじん、ミニトマト、ピーマン、枝豆、かぼちゃ、と様々な夏野菜が園児たちによって植えられ、収穫を迎えました。

年長組のお泊り保育では収穫したじゃが芋、小さなにんじん、ピーマンを加えてカレーライス作りに挑戦しました。



春からじゃが芋の植え付けをして水遣りをし過ぎたせいか、葉っぱの勢いが良すぎて実がならないのではと心配していたくらいです。収穫の日はどうなお芋が出てくるのか楽しみで、菜園の土を素手でしっかりと掘り起こし大きな声を上げながら収穫を楽しんでおりました。にんじんは疎抜きがもったいなくて出来なかったせいなのでしょうか、小さなにんじんになってしまいました。

お泊り保育当日、園児たちの掘ったじゃが芋（採れたじゃが芋で十分でした。）や、にんじん、ピーマン、そしてインゲン、シメジなどを園児たちが小さな包丁で切り分けました。（園児たちは、包丁の持ち方を粘土を使って練習を重ねています。）

園庭で大なべを囲んでカレーが出来上がるのを、今か今かと楽しみにしておりました。園児たちの顔が、



かまどの火に当たって赤くなっていたのは、火のせいだけではなかったようです。出来上がったカレーライスの食べっぷりは見事でした。

わたなべ幼稚園も創立以来食育の幼稚園として、衛生管理、栄養管理の行き届いた、手作り給食の幼稚園といわれてまいりました。30周年を迎え、食育を園児達が実践していく幼稚園としての新たな挑戦が出来たのではないかと思います。これからも園児による食への関わりが広がられたらと思っております。

30周年記念事業としては園庭の改装工事、園庭遊具の入れ替え工事、給食施設改修工事等、大きな工事をしております。既に、正門にピーターパンの人形を園舎1階外壁には、ディズニーのミッキーの仲間達のパネルを飾りました。特にカラフルで存在感のある大型遊具「サンシャインベシック」は、タラップやアーチ型ネット、ネット通路、ろくぼく等、魅力ある遊びの機能と滑り台が組み込まれており、園児にも幼児教室の親子にも大好評で園のシンボルとなっています。



さらに、平成17年に園に隣接する土地・建物を購入し、今年改修工事を終えた「子育て支援センター」は、就園前の親子が交流する幼児教室や保護者との子育て相談の場として本格的に活動が始まりました。また、平成12年に文部科学省が認め推進してきた満3歳児保育については、本園も準備が整い今年の4月より満3歳児就園に取り組んでおります。

創立30周年にあたり、幼稚園が子ども達にとって安全で、楽しい子供の遊ぶお城であってほしいと思っております。また、保護者の方々には安心して預けられる幼稚園としてこれからも設備の整備、安全管理、そして保育の質の向上を目指して行きたいと思っております。



## 委員会活動

### 教務委員会

教務委員会は、①教育課程、②授業計画、行事予定及びその実施、③定期試験及び追・再試験、④学生の入学、休学、退学及び卒業、⑤教育施設・設備及び教材教具等、⑥その他教務の各事項に関する事項を審議し教授会又は拡大教授会に提案する原案を作成するために設けられている委員会である。本学の教育が目的に照らして効果的、効率的に行われ、その成果が十分に発揮されることを目指して多岐にわたる問題に検討を重ねている。

開学以来3年次生の過程が進行するにいたり、学外の企業や施設の協力のもとに学生個人別の学外実習や就職活動も行われるようになり、講義教科課程の完遂との整合を図る必要が生じている。教務委員会ではこの問題への対処として学生の個別的な補習の実施など、具体的な方策を検討している。

また、開学3年を経過し、全学的に、この間の経験に照らして自己点検・自己評価を試み、将来的発展への努力が課題となっているが、教務委員会でも職掌の事項についての検討を行っている。

### インターンシップ委員会

食品学科では、3年生にインターンシップ（学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと）を実施している。この教科は選択科目（2単位）であるが、実学を重視する食品学科の鍵となる科目である。

食品学科では、約20社の企業に、インターンシップ受け入れを依頼した。今年度インターンシップを受講した3年生は31名で、学生は前期に、事前教育として実習の目的、心構え、研究課題の設定、注意事項、開始時、終了時の対応等の講義を受け、さらに複数回のオリエンテーションを受講した。各学生は就業体験をする会社で、事前の面接を受け、8から9月の間、1から2週間の期間で研修を受けた。研修内容は、食品関連企業での、研究、開発、製造、営業や、ホテル、老人介護施設でフード部門のケアなどである。学生は各分野で積極的に活動し、課題を解決し、その分野で必要とされる知識や技術を身につけることができた。インターンシップ終了後、学生は、レポートを提出し、さらに食品学科1、2年生を含めたインターンシップ報告会で反省を含めた討議を行うことにしている。

### 生活指導委員会

生活指導委員会では、①学生の団体、課外活動に関する事項、②学生の賞罰に関する事項、③奨学生の選考に関する事項、④その他生活指導に関する必要な事項について審議の上、原案を作成して教授会または拡大教授会に提案している。学生主体のもと、体育祭と聖栄葛飾祭（大学祭）を学校行事として成功させてきている。本年4月には、奨学生選考規程に基づいて第1期生の中から、学力優秀、品行方正で他の模範となる3人（管理栄養学科川口春菜、管理栄養学科古橋 恵、食品学科籠口真希）を初めて選考し、拡大教授会に推薦し確定となった。学生の要望は多岐にわたり、それに応えるべく今まで、自販機の設置、ロッカーの充実、施設の使用制限の緩和などの実現に努力してきた。さらに、学生の満足度を高めるべく、全教職員が学生支援・学生相談に対応できるような包括的な体制を提案しているところである。現在、昨年を引き続いてマナー向上運動を実施中で、今年はさらにエコ推進運動を展開しつつある。

### 臨地実習センター運営委員会

臨地・校外実習（以下実習）とは、健康増進法に規定されている特定給食施設等の実践活動の場での「課題発見・解決」などを通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。実習Ⅰ（臨床栄養学：病院等）、実習Ⅱ（公衆栄養学：保健所等）、実習Ⅲ（給食経営管理論：特定給食施設等）、実習Ⅳ（給食の運営：事業所等）で4単位以上実施する。実習の時期・人数・期間は3・4学年に、原則として、2名～6名の少数グループで各施設1～2週間である（実施時期未定）。

本学では、実習を円滑に進めるため、「臨地実習センター」を設置し、センター長をはじめとして、顧問、常任委員、運営委員、関係教職員全員で実習の支援体制を整えている。実習に当たっては、事前の準備として、実習関連教科の実力向上講座の充実、施設別特別ガイダンス、個人別実習課題の設定、人間関係の構築（コミュニケーション法・カウンセリング法等）、細菌検査、服装、言動等に関する支援・注意等を行う。実習終了後は、実習課題の達成状況等のレポート報告、施設別反省会、全体発表会等を実施し、管理栄養士として具備すべき知識及び技能の修得に努める。（平成19年度は実習Ⅳ「給食の運営」について実践活動中である。）

## 学友会活動

### 会長挨拶



学友会会長 管理栄養学科3年  
堀内 紗友里

この度、会長に承認していただきました管理栄養学科3年堀内紗友里です。本年度の学友会の目標は地域との交流を行うこと、積極的に挨拶すること、行

事を成功させることです。特に今年は我が学園創立60周年という歴史ある年を迎えるにあたり大学祭などの行事をより一層盛り上げていきたいと考えています。

大学の学友会が発足して2年目ですが、去年の失敗や反省、経験を生かし、よりよい学校生活になるように学友会役員一同努力してまいりますので、皆様ご協力よろしくお願い致します。

### 部・同好会説明会

今年度より学生による要望が実現し、学友会による『部・同好会説明会』が新年度のガイダンス期間に実施されることになった。4月5日の説明会には、4日に入学した新生生のほぼ全学生が参加し、部・同好会合計20団体による新入生勧誘が熱心に行われた。



### 学友会総会・新入生歓迎会

4月18日、「平成19年度学友会総会」が開催され、学友会暫定会則の改正、新役員の選出、18年決算報告及び19年度予算案等が承認された。新役員は3年次生



12名が留任し、2年次生12名が新しく選任された。

「新入生歓迎会」では、松本信二本学教授による『グローバルな食について』と題した特別講演が行われた。その後、今年度の企画としてクラス別及び部・同好会の写真撮影が行われ、部・同好会の写真は現在、学友会ホームページの部・同好会紹介サイトに掲載されている。



### 体育祭

5月16日、五月晴れのもと船橋市にある本学第1グラウンドにおいて体育祭が開催された。後援会から寄贈された真新しい「テント」や紅白玉入れ用の「玉入れ台」が披露された。クラス対抗戦は2FBクラスが総合優



勝し「学長杯トロフィー」を勝ち取り、準優勝は2FAクラスと2年次生が大いに健闘した。また1年次生は入学後最初に行なわれた大きな行事を通じクラスメイトとの親睦が計られた。





## 聖栄葛飾祭（大学祭）

本学の大学祭は昨年より正式名称が『聖栄葛飾祭』と命名され、地元密着型の大学祭として好評を博した。今年度は学園創立60周年記念として、11月10日（土）11日（日）の両日開催される。今年のテーマは、本年度から全学的に推進している『ECO推進運動』と歩調を合わせた企画を取り入れる目的で「食からはじめるエコロジー」と決定した。学友会が中心となり、地球

環境問題に配慮した楽しい企画を予定している。

また、60周年記念イベントとして編集者の山田五郎氏による講演会が開催される。多くの方々のご来校をお待ちしています。



### サンデークッキング

今年度のサンデークッキングは、(社)日本フードスペシャリスト協会の「食に関する一般向け啓蒙活動推進助成企画」に入賞した。以前よりサンデークッキングでは、小学生と保護者を対象とし、学生が主体となり、子どもの好きなおやつ作りなどを通じて、衛生・安全に留意しながら、栄養バランスのとれた食生活を送るためのイベントを実施してきた。今年度は特に、「食」を選べる力を習得されることを目的に楽しいイベントを企画している。



## TOPICS 1

9月11日、今年の聖栄葛飾祭が『葛飾区後援』として実施することが決定した。今後、食育イベント行事等で葛飾区と協力していく事が予定されている。

## 部・同好会について

学友会の承認を受けた部・同好会は、学術・文化・スポーツ等の各分野で課外活動が行っている。本年度に入り、新たにサッカー同好会の新規設立が承認され、部8団体、同好会13団体の計21団体の活発な活動が行われている。中でも、食品加工研究部は明治乳業守谷工場へ工場

### <部・同好会一覧>

部 名	学 生 代 表	
食 品 加 工 研 究 部	3NA	小野寺 晶子
食 品 化 学 研 究 部	2FA	古澤 侑太
調 理 実 習 部	3NB	齋田 昌子
硬 式 テ ニ ス 部	2NB	馬場 正祥
合 気 道 部	3NB	宮地 康平
バレーボール部	2NB	福原 彩
バスケットボール部	3NA	阿保 春奈
華 道 部	2NB	西成 沙恵

見学を実施した。硬式テニス部、合気道部は恒例の合宿を夏期休暇期間中に行い、聖栄ピアヘルピングワークスも今年から夏期休暇期間に合宿を実施した。

同 好 会 名	学 生 代 表	
ダンス同好会	3NB	安藤 閑香
バドミントン同好会	2NB	塩野 綾子
軽音楽同好会	3FA	荻原 稔
あぐり	3NB	松原 久恵
栄養学研究会	3FA	山口 大樹
ソフトテニス同好会	3NB	細田 奈央
フットサル同好会	3NA	吉田 裕志
野球同好会	3FA	嶋中 健太
聖栄ピアヘルピングワークス	3NB	平野 葉実
勉強会クラブ	3NB	鈴木 愛
パン同好会	3FA	佐藤 久美
剣道同好会	3NA	川口 春菜
サッカー同好会	2NA	平塚 拓也

## TOPICS 2

### 学友会 HP

学友会では、平成18年11月にホームページ (<http://www.tsc-05.ac.jp/gakuyukai/>) を作成した。学友会のトップページには、学友会のNEWSやTopicsの欄があり学友会の最新情報が掲載されている。現在、「総会・新入生歓迎会」「体育祭」「聖栄葛飾祭」「サークル活動」のサイトがありますので、是非ご覧ください。



## 平成20年度 学生募集要項

### 【管理栄養学科】（募集定員 80 名）

入試区分	募集人員	選抜方法	出願資格・試験教科等	試験日
指定校制推薦入試	8名	面接・調査書	校長推薦、第一志望、3.5以上、一浪可	11月4日(日)
公募制推薦入試Ⅰ期	20名	適性テスト・面接・調査書	校長推薦、第一志望、一浪可	
一般入試Ⅰ期	40名	学力試験・調査書	必須：「国語総合・国語表現Ⅰ」（古文・漢文除く）、「英語Ⅰ・英語Ⅱ」	2月2日(土)
一般入試Ⅱ期	6名		選択：「数学Ⅰ・数学A」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	2月26日(火)
センター利用入試Ⅰ期	4名	大学入試センター試験成績・調査書	必須：「国語」（近代以降の文章）、「英語」（リスニングを除く）	1月19日(土)
センター利用入試Ⅱ期	2名		選択：「数学Ⅰ・数学A」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	1月20日(日)

### 【食品学科】（募集定員 80 名）

入試区分	募集人員	選抜方法	出願資格・試験教科等	試験日
AO入試	8名	自己PR書・模擬授業・受講感想文・面接・課題発表・調査書	AOガイド参照	一次9月8日(土) 二次9月22日(土)
指定校制推薦入試	8名	面接・調査書	校長推薦、第一志望、3.3以上、一浪可	11月4日(日)
指定校制特別推薦入試	4名	面接・調査書	校長推薦、第一志望、3.3以上、一浪可	
公募制推薦入試Ⅰ期	12名	適性テスト・面接・調査書	校長推薦、第一志望、一浪可	
公募制特別推薦入試 (専門高校・総合学科枠)	2名	適性テスト・面接・調査書	校長推薦、第一志望、一浪可	
社会人特別入試	若干名	小論文・面接・調査書	平成15年3月までに高等学校を卒業した社会経験者を対象	
公募制推薦入試Ⅱ期	6名	小論文・面接・調査書	校長推薦、第一志望、3.3以上、一浪可	12月16日(日)
一般入試Ⅰ期	24名	学力試験・調査書	必須：「国語総合・国語表現Ⅰ」（古文・漢文除く）、「英語Ⅰ・英語Ⅱ」	2月2日(土)
一般入試Ⅱ期	10名		選択：「数学Ⅰ・数学A」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	2月26日(火)
センター利用入試Ⅰ期	4名	大学入試センター試験成績・調査書	必須：「国語」（近代以降の文章）、「英語」（リスニングを除く）	1月19日(土)
センター利用入試Ⅱ期	2名		選択：「数学Ⅰ・数学A」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	1月20日(日)

※両学科で実施するセンター試験利用入試の選択について：複数科目を受験した場合には、そのうちの高得点科目の成績を採用します。

## 受験相談会

**10/13 (土)** **11/10 (土)** **11/11 (日)** **12/1 (土)** **1/12 (土)**

■開催時間：各回とも13:00 - 16:00 要予約

■主要内容：平成20年度入試概要説明、個別受験相談、キャンパス見学、在学生と話そう 他

※11月10日、11日は聖栄葛飾祭（大学祭）同時開催。

＜お問い合わせ先＞  
学生支援センター入試相談室

〒124-8530 東京都葛飾区西新小岩 1-4-6  
TEL: 03-3692-0211 (代) TEL: 03-3692-0238 (入試相談室 直通)  
URL <http://www.tsc-05.ac.jp/> E-mail [nyushi@tsc-05.ac.jp](mailto:nyushi@tsc-05.ac.jp)